

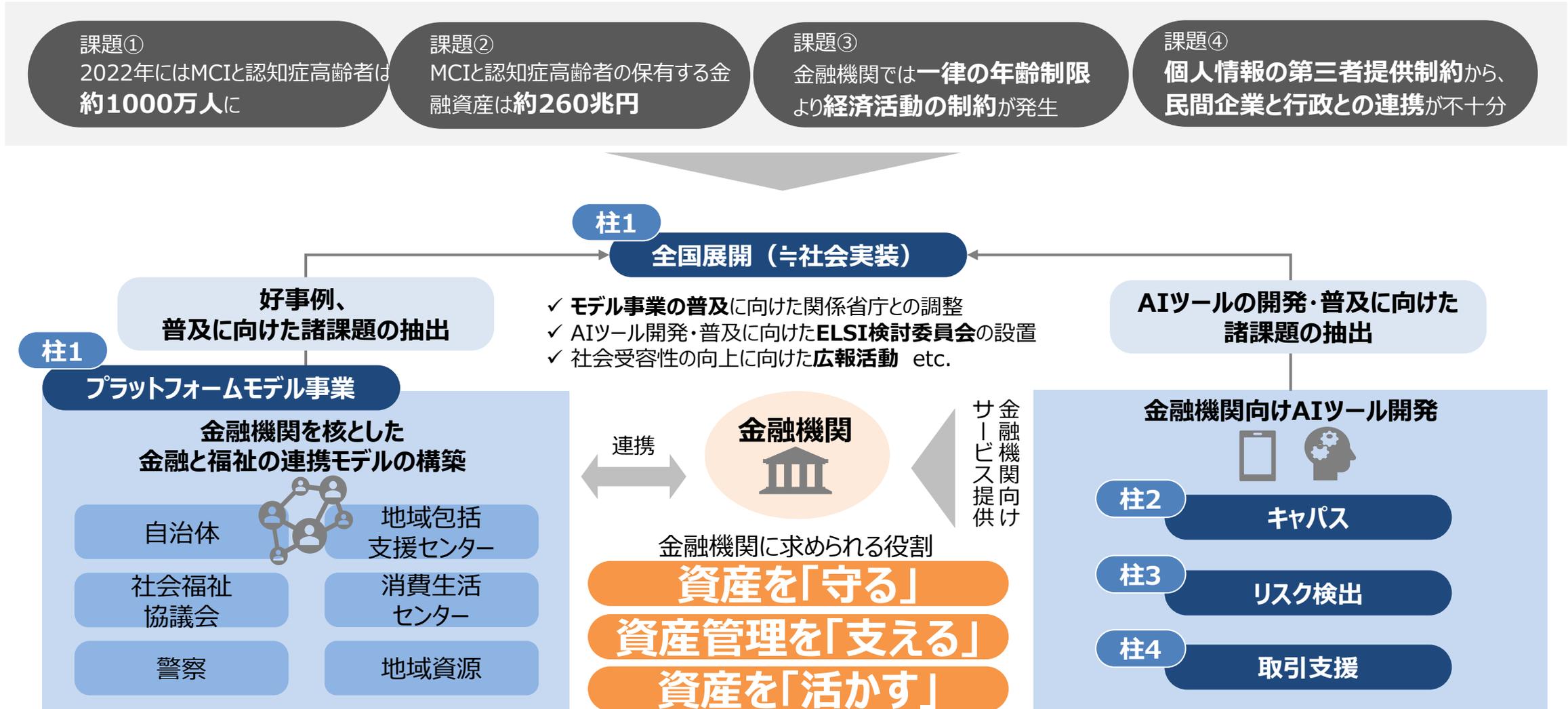
「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」金融包摂D3第2回シンポジウム

D-3 : 高齢者が生涯にわたって自立的に経済活動ができる 包摂的な社会経済システム構築 令和6年度の実績報告概要

慶應義塾大学 経済学部経済研究所 F G 研究センター 駒村康平

本テーマの取組の全体像

- 本テーマは、金融と福祉の連携モデルを構築する事業に加えて、高齢者それぞれの認知機能に応じた取引を実現する3つのAIツール開発（キャパス、リスク検出、取引支援）に取り組んでおり、それらの取組を全国展開する体制としている。



- R5年度はホップ、R6年度はステップ、R7年度はジャンプの年と位置づけ。
- 高齢社会対策大綱を「追い風」に全国に金融と福祉の取り組みを拡大する。

高齢社会対策大綱関連部分

	大綱の内容	関連省庁
1	消費者安全確保地域協議会、重層的支援体制整備事業の支援会議に 金融機関の参加を促進 (活動報告2)	消費者庁、厚労省
2	支援会議から 金融機関等に情報提供 を求める (活動報告2)	厚労省
3	福祉機関との連携、金融機関内の情報共有等の 金融分野ガイドライン等の運用の見直しを検討	厚労省、金融庁
4	経済取引の判断能力、認知機能の状態に応じたサポートする AI技術等の開発・実証 (活動報告1)	内閣府、金融庁
5	高齢期における認知機能の低下に備えた知識の習得	金融庁
6	認知判断能力や身体機能が低下した高齢者に対する 顧客本位の業務運営	金融庁、消費者庁

老後の資産管理に関する調査（本人、家族） 調査結果（'24/3月実施）から得られた結論

1：現状とリスクの存在

- ・ 認知症への不安を抱く**高齢者は64%**、子どもに財産の状況を伝えているのは**約35%**（本人調査）
- ・ 親の資産の状況を把握している**子どもは約35%**（家族調査。（1）と整合的）。

2：金福連携に対する評価

- ・ 認知機能の低下が疑われ、金融機関職員が放置できないと判断した場合、**60%～70%の回答者**が「金融と福祉機関の連携」を望む（本人調査、家族調査とも同様）。
- ・ 「金福連携」を積極的に評価する高齢者の特徴
 - ①親子間の連絡・**会話が多い**（高齢者の孤独・孤立問題と関連）
 - ②認知機能に関する**主観的評価が高い**
⇒**認知機能の低下が進むほど、連携の必要性を感じなくなるという矛盾した問題が発生。**
 - ③認知症に関する**知識が高い**

3：すでに発生している問題

- ・ 主観的認知機能が低下すると、特殊詐欺、消費者問題、EC（ネットによる契約）の被害を受ける確率は、**健常者の2～3倍**に上昇する。
- ・ 親が「認知症等で**金融機関口座が凍結された**」経験を持つ子どもは**11%**（家族調査）。